

国立大学法人群馬大学の平成24年度に係る業務の実績に関する評価結果

1 全体評価

群馬大学は、北関東を代表する総合大学として、知の探求、伝承、実証の拠点として、次世代を担う豊かな教養と高度な専門性を持った人材を育成すること、先端的かつ世界水準の学術研究を推進すること、そして、地域社会から世界にまで開かれた大学として社会に貢献することを基本理念に掲げている。第2期中期目標期間においては、教育を通じて、豊かな人間性を備え、広い視野と探求心を持ち、基礎知識に裏打ちされた深い専門性を有する人材を育成すること等を目標としている。

この目標達成に向けて学長のリーダーシップの下、英語教育・少人数教育の充実、学問分野の細分化から統合化への転換、また、理学をベースとした知の統合を目指した「理工学部」及び「理工学府」の設置等、「法人の基本的な目標」に沿って計画的に取り組んでいることが認められる。

(戦略的・意欲的な計画の状況)

第2期中期目標期間において、特色を活かしつつ、優れた研究教育拠点の形成等を目指した戦略的・意欲的な計画を定めて積極的に取り組んでおり、平成24年度においては、研究面では重粒子線イオン源装置の高度化や治療用照射器具開発の実施、教育面では「重粒子線医工学グローバルリーダー養成プログラム・重粒子線医工連携コース」における研究奨励金制度の新設、また、医療面では3次元積層照射法による治療等を行っている。

2 項目別評価

I. 業務運営・財務内容等の状況

(1) 業務運営の改善及び効率化に関する目標

(①組織運営の改善、②事務等の効率化・合理化)

平成24年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

- テニユアトラック制として「先端科学研究指導者育成ユニット（先端医学・生命科学研究分野及び先端工学研究分野）」に在籍する若手研究者（Young Ambitious(YA)教員）の研究環境の整備を継続するとともに、YA教員1名を国際公募により採用している。

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載4事項すべてが「年度計画を十分に実施している」と認められ、上記の状況等を総合的に勘案したことによる。

(2) 財務内容の改善に関する目標

(①外部研究資金、寄附金その他の自己収入の増加、②経費の抑制)

平成 24 年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

- 研究戦略室を中心に、学部をまたがる研究グループ活動や他機関との研究活動を促進するための情報提供や支援を行うとともに、科学研究費助成事業の公募説明会をキャンパス毎に開催し、科学研究費補助金の採択件数は 452 件（対前年度比 40 件増）、採択額は 7 億 8,500 万円（同 8,200 万円増）となっている。

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載 6 事項すべてが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められ、上記の状況等を総合的に勘案したことによる。

(3) 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標

(①評価の充実、②情報公開や情報発信等の推進)

平成 24 年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

- 工学部では、理工系大学への進学を考えている女子高校生向けに就職状況等を掲載した冊子“GO! GO! TECHGIRL”を発行するなど進路選択の後押しとなる支援に取り組み、女子の志願者数は 330 名（対前年度比 41 名増）となっている。

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載 2 事項すべてが「年度計画を十分に実施している」と認められ、上記の状況等を総合的に勘案したことによる。

(4) その他業務運営に関する重要目標

(①施設設備の整備・活用等、②安全管理、③法令遵守)

平成 24 年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

- 情報セキュリティポリシー普及のため、学部一年次生を対象に e-learning による情報倫理教育を留学生にも対応するよう日英中韓の 4 か国語で実施するとともに、e-learning 教材は職員研修でも使用しているほか、学術認証フェデレーション「学認」（国立情報学研究所等で構成する連合体）で共同利用している。

平成 24 年度の実績のうち、下記の事項に**課題**がある。

- 附属病院において、医員が患者の個人情報をインターネット上に一時流出させた事例、研修医が患者の個人情報が記されたノートを紛失する事例があったことから、再発防止とともに、個人情報保護に関するリスクマネジメントに対する積極的な取組が望まれる。

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載 7 事項すべてが「年度計画を十分に実施している」と認められるほか、平成 23 年度評価において評価委員会が指摘した課題について改善に向けた取組が行われていること等を総合的に勘案したことによる。

II. 教育研究等の質の向上の状況

平成 24 年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

- 工学部・工学研究科を改組し、学生が所属する教育組織としての理工学部・理工学府に対して、教員が一元的に所属する研究組織として「理工学研究院」を設置することを決定し、分野融合型プロジェクト並びに産学連携プロジェクトを推進し、学術や産業界の発展へと展開していくこととしている。
- 社会情報学部において、企業等における実践的な活動を授業に有効に活用する目的で「連携授業」を制度化し、地元銀行の役職員を講師とした授業を試行（受講 22 名）するとともに、平成 25 年度の本格実施に向けて企業等との連携を拡充している。
- 「基礎・臨床を両輪とした医学教育改革によるグローバルな医師養成」事業である「卒前・卒後一貫 MD-PhD コース」においては、基礎医学教育・研究医及び法医解剖医の養成を目的に、医学部 3 年次から大学院授業を選択できるプレ履修を実施している。
- がん医療の中心で活躍する国際感覚に富んだ専門医療人・指導者の育成を目的とする「国際協力型がん臨床指導者養成拠点」（がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン）において、大学院教育コースとして 7 コースを開設（12 名）するとともに、インテンシブ（集中）コースを 5 コース（41 名）開設しているほか、カリキュラム整備を行い e-learning 科目の収録を進めている。
- 燃料電池触媒として用いられてきた白金触媒に替わる、燃料電池用カーボンアロイ触媒に関する研究を推進しており、安価で資源的に不安のない燃料電池の低価格普及化をもたらすと期待される研究として、文部科学大臣表彰（科学技術賞研究部門）を受賞している。
- 科学技術振興機構研究開発プログラムの支援を受け、マイカー依存型の社会構造や高齢化の問題を解決するための研究開発の一つとして、低速の電動コミュニティーバス「E-コミバス（愛称・MAYU）」の開発を行った結果、公道の走行も可能になり、

桐生市と連携し実用化されている。

- 「日経グローバル」において、地域住民向け地域貢献、地元企業との共同研究やボランティア・防災に関する支援等が高い評価を受け、全国の大学を対象とした地域貢献度総合ランキングで平成 24 年度は 7 位と連続上位（22 年度は 1 位、23 年度は 4 位）となっている。
- 工学研究科では、防災分野における「減災」に資する研究の成果が、平時における防災思想の普及面での功績が顕著であるとして、防災功労者内閣総理大臣表彰を受賞している。
- 若手教員等が世界保健機関（WHO）本部や西太平洋事務局等を訪問し、アジア地域での保健人材育成のための連携活動についての討論会等への参画や、また、シンポジウムの開催等、チーム医療教育の国際的普及活動を行っている。
- グローバル人材育成事業の一環として、派遣交換留学や海外研修プログラムに参加する学生に対して、奨励金を支給する制度を創設し 38 名に給付（288 万円）し、さらに、協定校の短期研修プログラム（6 プログラム）を教養教育科目「総合科目群」の「海外短期研修プログラム」として平成 25 年度から開設することとしている。

共同利用・共同研究拠点関係

- 生体調節研究所では、東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科との共同研究の成果として、肥満・糖尿病モデルの遺伝学的解析により、ALK7 遺伝子の変異が脂肪重量・体重を減少させ、インスリン抵抗性を改善することを見出している。また、ALK7 が過栄養状態で脂肪蓄積を引き起こす分子機序を解明しており、米国の学術雑誌に発表されている。

附属病院関係

（教育・研究面）

- 女性医師等教育・支援部門は医療人能力開発センター発行の情報誌の中で広報活動を行うとともに、女子医学生を対象とした講演会「第 2 回 Wind Joy Net Plus Meeting」の開催、群馬県医師会主催の「保育サポーターバンク制度」への参画等を行っている。

（診療面）

- 重粒子線治療では、平成 24 年度には頭蓋底腫瘍等の新たな疾患の治療に用いたり、薬物療法等と併用して集学的治療を行うなど、315 名の治療を行っている。

（運営面）

- 群馬県における臨床研修医や後期研修医の積極的な確保・支援を図るため、群馬県、県内各病院との連携により設置された「ぐんまレジデントサポート協議会」では、先輩研修医が体験談を医学生に向けて発表する「ぐんまレジデントグランプリ」や、「群馬県臨床研修病院合同ガイダンス」の開催等の活動を行っている。
- 附属病院における財務運営費について、財務諸表上の附属病院セグメント（損益ベース）と事業報告書上の収支の状況（キャッシュベース）、それぞれの観点からの記載はあるものの、債務償還を含めた経営の実態、翌期以降将来に向けた人的投資、設備投資ができる予算があるのかなど、運営上の課題について今後十分な説明責任を果たすべきである。